

(学年) 第2学年, (教科・科目) 地理歴史・世界史A

一斉学習

(単元) 冷戦から地球社会へ 中東戦争とイスラーム復興

(本時のねらい)

パレスチナ問題は現在進行中の紛争であるが、民族・宗教・歴史さらには当事者以外の思惑も加わって複雑化している。近現代の学習だけでこの問題を理解することは困難である。独自教材で地理・歴史・時事をまとめて学ぶことにより、パレスチナ問題を総体的にとらえさせたい。本校の生徒には学習の定着にやや問題がある生徒もいるが、反復して学習することで知識を増やしている。グローバル社会を生きていく中で、パレスチナ問題をはじめとする地域紛争のただ中であらう人びとがいることを理解させたいと思う。

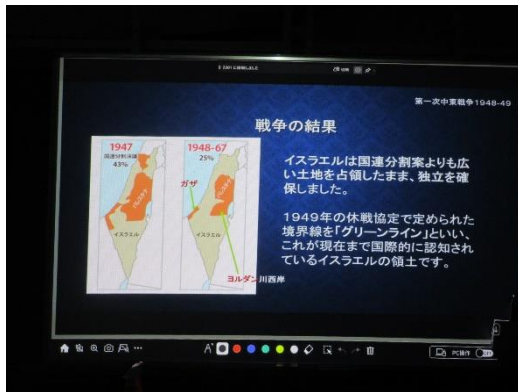
(ICT 活用方法)

パレスチナ問題を理解するために、2 時間で展開する教材をプレゼンテーションソフトで作成し、これを資料としてプレゼンテーション形式で授業を行う。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・なぜパレスチナ問題を学習するのかを理解する。	・数ある地域紛争の中でも歴史的な要因が強く反映していることを伝える。	・プレゼンテーションソフトによる資料の提示と説明を行う。
展開 35分	・パレスチナの位置、ユダヤ人・パレスチナ人それぞれの宗教や歴史、なぜパレスチナにこだわるのかといった内容についての説明を聞く。 ・イギリスの三枚舌外交がもたらした中東戦争の流れをつかむ。 ・数度にわたる戦争が多量の難民を生み出していることを理解する。	・文字の多いスライドに関しては、時間を考慮しながら簡素化して説明する。	・プレゼンテーションソフトによる資料の提示と説明を行う。
まとめ 5分	・本時のまとめと次時の予告を聞く		

(授業の様子)



プレゼンのスライド

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

パレスチナ問題は、すべてを理解するのは困難であるが、通史としてユダヤ人とパレスチナ人それぞれの民族史や宗教を学習し、イギリスの多重外交による問題の発生を丁寧につなげることで、理解が深まると考える。

ヨルダンやシリアの難民キャンプ、インティファダで子どもが戦車に投石している写真には少なからず生徒が関心を寄せた様子だった。解決への糸口を探るところにはいけな
いが、地域紛争の現状を知らせることは大切である。